

平成 26 年 4 月 1 日

STAP 細胞研究論文にかかる調査報告を受けて

理事長 野依良治

1. 研究不正に係る報告を受けて

今般、理研の研究者が著者として発表した二篇の Nature 誌論文に関する疑義に対し、調査委員会による調査結果が報告されました。調査の結果、共同研究論文の作成過程において、著者の一人に研究不正があったことが確認されました。さらに、複数の共著者について、データの正確性と結論の正当性等についての確認が不十分であり、本研究不正における重大な責任の存在の指摘を受けることとなりました。これらのことを誠に遺憾に存じます。

理研の研究者が発表した論文が科学社会の信頼性を損なう事態を引き起こしたことに對し、改めてお詫びを申し上げます。

2. 関係者への対応

研究者は高い倫理観をもって活動し、論文記載の観察結果及びそこから導かれる科学的結論について全面的に責任を負わねばなりません。特に主張の根拠となる自らの実験結果を適切に管理し、慎重に評価することは、研究者の最も基本的な態度です。

この度、私は理研の著者たちに対し、調査結果を通知しました。不服申し立てを行う権利の保障など、所定の手続きを経た上で、研究不正と確認された論文一篇について取下げの勧告を行います。さらに、関係者の処分については、懲戒委員会の議を経た上で厳正に行います。

研究不正は許されるものではありません。一方で、著者たちの人格や人権を否定することがあってはなりません。この点について十分に配慮を行い、対処していく所存です。

3. 理研としての対応

(1) ガバナンスと再発防止策への取り組みの決意

理研は、様々な研究事業を通じて、科学社会のみならず社会全体に貢献する使命を持ちます。研究グループ、研究チーム等の責任者には、国内外から優れた研究者の登用を心掛け、また若手人材については、研究リーダーから研究員、技術者を含め、過去の業績のみならず将来性を考慮して採用し、これまで数多くの成果を上げてまいりました。

共同研究においては、研究立案から実施、成果発表に至るまで、研究者やグループ間の責任分担を明確にすべきです。残念ながら、今回の共同作業において、若手研究者の倫理観、経験の不足と、それを補うべき立場の研究者たちの指導力の不足、また両者による相互検証の欠如が、研究論文発表における不正を引き起こしました。

本事案を厳粛に受け止め、理研は組織運営を再点検し、高い規範を再生しなければなりません。このため、私自身を本部長とする改革推進本部を設けるとともに、外部有識者からなる改革委員会により、データの取得、管理から成果の発表に至るまでのプロセスを再点検します。その上で、研究不正や過失の防止にかかわる規程や運用の改善に全力を挙げて取り組みます。特に、研究倫理教育については、そのあり方を根本から考え直し、実効性ある体制の整備を早急に進めてまいります。

(2) 若手研究者が最大限に能力を発揮できる環境整備に向けて

もとより、科学研究において多様な人材を登用することは、研究分野に新たな視点をもたらし、質の転換を図る上で極めて重要です。特に若い研究者について、独立性を確保しながら適切に導き、大きく成長させることは、科学技術イノベーションへの貢献を目指す研究所の責務です。

この観点からは、今後も優れた若手研究者の登用を積極的に行い、彼らが最大限に才能を発揮できる環境整備や運営に努め、社会の信頼に応え得る研究者の育成に努めていく所存です。

(3) 理研としての STAP 現象の検証計画への取り組み

STAP 現象の科学的検証は、第三者による追試によってなされていくものです。まずは理研の研究者がその厳密な検証を試みるとともに、外部機関の研究者による再現実験に積極的に協力し、必要な情報を提供するための体制を整備していきます。

これらについては、私が先頭に立って、全力を挙げて取り組んでまいります。

以 上